



令和7年8月7日

豊川市政記者クラブ加盟社 各位

〈豊川海軍工廠被爆80年〉
豊川市平和祈念式典を開催しました



本日、8月7日午前10時00分から、市文化会館において豊川市平和祈念式典を開催しましたところ、1250人のご参加をいただきました。

式典では、市議会議長式辞、市長平和宣言、ご来賓の挨拶、献花、豊川高等学校演劇部による豊川海軍工廠劇「すけっちぶっく」上演、豊川海軍工廠語り継ぎボランティアの大学生2人による平和への誓いが厳かな雰囲気の中、滞りなく行われました。

市長の平和宣言、豊川海軍工廠語り継ぎボランティアの大学生2人による平和への誓いについては別紙のとおりです。

【お問合せ先】

豊川市役所 企画部 秘書課 秘書係 岡・小山
TEL:0533-89-2120 Eメール:hisho@city.toyokawa.lg.jp

平和宣言

初めに、平成7年8月7日に本市が発出した「平和都市宣言」を、今一度、皆様とともに深く心に刻み込むため、読み上げます。

「平和都市宣言」

昭和20年8月7日、私たちのまちでは、豊川海軍工廠の被爆によって、動員学徒や女子挺身隊員を含む工員、職員ら2,500名以上の尊い命が奪われ、身をもって戦争の悲惨さを体験しました。そして、この被爆と前後して、私たちの国は、世界で最初の核被爆国となりました。

私たちの国だけでなく、歴史上かつてないほど多くの犠牲者を出したこうしたことが、なぜ起きたのか、ともに考え、子孫に語り伝えていかなければなりません。戦争の惨禍を防止し、恒久平和を実現することが、私たち市民の願いだからです。

しかし、現実には、世界各地で武力紛争や戦争が絶え間なく起こり、核戦争の危機は、人類の生存に大きな脅威となっています。

私たち豊川市民は、人権を尊重しあい、平和を愛する心を育て、人類の絶滅につながる核兵器の廃絶を訴え、地球の平和と安全の確保を希求するため、ここに平和都市を宣言します。

平成7年8月7日 豊川市

この「平和都市宣言」は、すべての市民の願いとして宣言いたしました。以降、本市では、毎年平和祈念式典を執り行い、平和で安全な世界の創造と存続を訴えてまいりました。

しかし、今もなお、地球上から武力による争いが絶えることはありません。

今を生きる私たちは、戦争の恐ろしさを深く胸に刻み、この地で起こった悲しい出来事の記憶が風化しないよう、平和の大切さを語り継いでいかなければなりません。

豊川海軍工廠の被爆から80年を迎え、本日の式典は、平和都市宣言の理念を次の世代へ確実に継承していくために、若い世代による演劇や平和への誓いを通じて皆様に訴えかけ、世代を超えて共に平和を考える機会とさせていただきました。

結びに、戦禍の犠牲となられた方々の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、将来を担う子どもたちの明るい未来を守るため、恒久平和に向けて全力を尽くすことを、ここにお誓い申し上げます。

令和7年8月7日
豊川市長 竹本 幸夫

平和への誓い

私たちは、高校3年生から豊川海軍工廠語り継ぎボランティアとして活動しています。まずは、活動を始めたきっかけをお話します。

正直、私にとっての豊川の歴史や戦争は、テレビや教科書の中で見るどこか遠い出来事でした。それが変わったのは高校生の時です。母校である国府高校の先輩が豊川海軍工廠で働き、命を落としたことを知りました。手記を読む中で、失われてしまったのは、今の私と同じように制服を着て友達と笑い合う日常だったのだと気づき、ぐっと身近に感じました。当時をもっと知りたいと思い、片岡さんを誘ってボランティアに参加し始めました。

私の祖母は豊川海軍工廠で働いていました。8月7日の爆撃を受け、生き残った祖母は多くを語らず、私が物心つく前に亡くなりました。祖母のこと、それに繋がる自分の歴史を知りたいとずっと考えていました。小学校からの同級生であった夏目さんから誘いを受けたことがきっかけで、活動を始めました。

ガイド活動の中で、来場者の方の考えや経験を引き出せた瞬間や来場者の方から自分になかった視点をいただく瞬間は何にも代えられない喜びであり、やりがいです。

一方で葛藤もあります。片岡さんの祖母がそうであったように、当時を語りたがらない人も大勢いらっしゃるからです。戦争体験を語り継ぐことは、戦争体験者にとってつらい記憶を掘り起こす事でもあるのかもしれませんが。そしてやはり、戦後に生まれた私たちにとって、当事者意識をもつことは難しく感じられます。何より、戦争について話すことは、どこか怖く、不安な思いを抱えることでもあります。

それでも、私たちは語り継いでいきたいと思っています。

誰にも知られなければ、過去の出来事はなかったことになってしまうからです。

今私たちが知り得る歴史は、誰かがここまで思いや願いを込めてつないできたものであるはずです。それを現代の私たちが、その時代を生きた人を忘れずに語り継ぎ、考えていくことが、これからの未来をどう作るかに繋がっていくのだと信じています。

私たちが行う活動の中では、いつも来場者の方にこうお伝えしています。

「今日知ったことや考えたことを、ぜひ家族や友達に伝えてください」

知ったことや考えたことを誰かに共有することは、まさに語り継ぐことの始まりです。

そして一人一人が思いをもってそれを続けることで、次の誰かに届き、そのまた次へと、語り継ぎの輪が広がっていくはずです。

豊川海軍工廠が被ばくしたあの日から 80 年。

私達は戦後と呼ばれる今を、未来を、「戦後」のままにしないではいけません。

意見や立場の違いを怖がらず、話し合いを重ね、平和を築いていかなければなりません。

私たちには「考える力」があります。

再び、誰にも悲劇がおこらないように、考えて動く力です。

悲しい歴史を繰り返さないためにできることは、絶対にあります。

その中の 1 つが語り継ぎという行為だと思います。

どうか語り継ぎを難しく考えすぎず、感じたことを言葉に出してみませんか。

ここにいる皆さん、配信を見ている皆さん、豊川に住む皆さん。一人一人にできることがあります。

みんなで明るい未来を創っていきましょう。

それが、私たちの「平和への誓い」です。

令和 7 年 8 月 7 日

片岡優美 夏目和佳